

令和 6 年度

岡崎市地域交流センター 業務報告書

施設名称	岡崎市北部地域交流センター・なごみん 岡崎市南部地域交流センター・よりなん 岡崎市西部地域交流センター・やはぎかん 岡崎市東部地域交流センター・むらさきかん 岡崎市地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里
施設の設置目的、役割	市民活動を活性化させることにより市民相互の交流を促進し、活力に満ちた地域社会の実現に寄与する施設。
施設の所在地	(北部) 岡崎市西藏前町字季平 45 番地 1 (南部) 岡崎市上地二丁目 39 番地 1 (西部) 岡崎市矢作町尊所 45 番地 1 (東部) 岡崎市藤川町字田中 19 番地 (六ツ美) 岡崎市中島町字上丸ノ内 7 番地 4
施設規模	(北部) 敷地 4670.30 m ² 駐車場 98 台 (岩津支所含む) 建物 R C 造 3 階建て 2194.47 m ² のうち 1793.20 m ² (岩津支所含む) (南部) 敷地 4317.00 m ² 駐車場 86 台 建物 R C 造 2 階建て 1609.06 m ² (西部) 敷地 5087.47 m ² 駐車場 101 台 (矢作支所含む) 建物 R C 造 2 階建て 2531.94 m ² (矢作支所含む) (東部) 敷地 5412.32 m ² 駐車場 85 台 建物 R C 造 2 階建て 2166.18 m ² (六ツ美) 敷地 6857.61 m ² 駐車場 65 台 建物 R C 造平屋建て 1495.18 m ²
指定管理者	名 称：特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた 所在地：岡崎市梅園町三丁目 6 - 6 代表者：理事長 築瀬 鈴憲
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・りた

目次

- 第1 市民活動の活性化と市民交流の促進に関する業務
 - 1 市民活動に関する情報収集及び情報提供
 - (1) 市民活動に関する資料の収集、整理、揭示、配架及び配布
 - (2) 地域交流センターホームページにおける市民活動情報の発信
 - (3) 市民活動団体紹介ホームページ（おかざき市民活動情報ひろば）の更新と管理
 - (4) 公益活動統合サイト「おかざき公益ナビ」
 - 2 市民活動に関する研修及び交流事業の企画立案
 - (1) 市民活動の支援や推進に係る研修
 - (2) 市民活動団体の連携の推進及び強化につながる交流事業
 - 3 市民活動に関する相談対応
 - 4 地域の市民活動の活性化に寄与する事業
 - (1) 地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業
 - (2) 周年記念事業
 - (3) 情報誌の発行及び配布
 - (4) 施設ボランティア・環境演出事業
- 第2 施設の運営に関する業務
 - 1 利用者対応業務
 - 2 施設等貸出し業務
 - 3 使用料等収受業務
 - 4 広報業務
 - 5 その他包括的運営に関すること
 - (1) 非常時の対応
 - (2) 飲料等の提供に関する業務
 - (3) その他包括的運営に関すること
- 第3 施設及び設備等の維持管理に関する業務
 - 1 保守管理及び環境維持管理業務
 - 2 駐車場及び駐輪場管理業務
 - 3 中長期修繕計画作成業務
- 第4 その他の業務
 - 1 人材育成研修
 - 2 市民意見の聴取及びその検討
 - (1) 運営懇談会
 - (2) 私の意見箱
 - (3) 利用者アンケート
 - (4) アウトリーチ
- 第5 管理運営上の目標
 - 1 利用者数
 - 2 ボランティアマッチング数
 - 3 事業への参加・協力団体数
 - 4 アウトリーチ
 - 5 市民活動の質的充実
- 第6 収支状況
 - 1 収支状況

- 2 収支状況に関する自己評価
- 第7 自主事業
- 第8 総括（事業全体に対する自己評価）

付録

- 別紙1 市民活動団体の抱える課題や規模及び特性に合わせた研修報告
- 別紙2 市民活動団体等の連携の推進及び強化につながる交流事業報告
- 別紙3 地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業報告
- 別紙4 情報誌まちのワ！一式
- 別紙5 その他事業報告（情報誌・施設ボランティア他）
- 別紙6 印刷サービス利用状況
- 別紙7 保守点検等実施記録
- 別紙8 修繕実施報告
- 別紙9 人材育成研修実施状況
- 別紙10 運営懇談会意見交換要旨
- 別紙11 利用者アンケート結果
- 別紙12 提案事業_市民協働推進計画該当項目

第1 市民活動の活性化と市民交流の促進に関する業務

1 市民活動に関する情報収集及び情報提供

(1) 市民活動に関する資料の収集、整理、掲示、配架及び配布

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

各地域交流センターにおいて、市民活動に関する催しや助成金・補助金などの資料、市民活動団体の活動紹介チラシ、活動紹介の新聞記事を館内掲示した。また、地域交流センターを定期的に利用している団体の活動情報一覧表を作成して配架するなど市民活動の啓発を行った。

(2) 地域交流センターホームページにおける市民活動情報の発信

地域交流センターホームページでは、市民活動団体向けのイベントや講座、助成金などの各種案内やメールマガジンの登録、市民活動に関連するボランティア情報などを継続的に発信した。

(3) 市民活動団体紹介ホームページ（おかざき市民活動情報ひろば）の更新と管理

市民活動センターと連携し、市民活動団体紹介ホームページの更新や管理、市民活動団体で更新方法が分からない団体へのサポートを行った。

同サイトの利用に関しては、フォローが必要な市民活動団体が多く、悠紀の里にて市民活動サポート研修「市民活動情報ひろば活用研修」を5月から6月にかけて実施。その後のアフターフォローを継続的に実施した。また、研修で使用したマニュアルを他センターにも展開することで、利用者に適切なアドバイスができる環境を整えた。

(4) 公益活動統合サイト「おかざき公益ナビ」

市民や市民活動団体、事業者、教育機関などによる公益活動や協働事業の好事例を紹介するサイトを運営している。2025年度3月末時点で20記事を掲載し、公益活動の啓発につなげた。今後も市民活動団体にとどまらず広く公益活動を紹介することで、市民にとって地域課題解決に向けて必要となる協働意識を一層高めていく。

2 市民活動に関する研修及び交流事業の企画立案

(1) 市民活動の支援や推進に係る研修

これまでの地域交流センターの運営で得られた経験から、市民活動団体に有用な研修内容を各センターで企画して開催した。一方向の講習ではなく、ワークを含めて研修内容を自分ごとに落とし込む工夫をすることで、研修参加者のアンケート結果からは満足度が高く、充実した内容を提供できたと考えている。（別紙1「市民活動団体の抱える課題や規模及び特性に合わせた研修報告」参照）

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
市民活動サポート 研修 「マネジメント研修 ①」	なごみん	6/5	参加者数(受講者):11人(8団体) 市民活動を始めたい人や始めたばかりの団体を対象に、「市民活動団体ってなあに？」をテーマに研修会を開催した。市民活動センターの鈴木センター長を講師として、市民活動団体の登録制度やメリット、団体運営をしていく上でのポイントを、事例を交えながら研修した。
市民活動サポート 研修 「マネジメント研修 ②」	なごみん	11/13	参加者数(受講者):13人(10団体) 新たに団体登録された市民活動団体やこれから団体登録を目指す団体が、模範となる団体から「団体運営のポイント」について助言を聞く機会を設けた。グループに分かれて情報交換や意見交換をする場を提供し、活動の幅を広げる機会となった。その結果、2団体が新たに市民活動団体の登録に至った。
市民活動サポート 研修 「イベント運営レベルアップ講座①」	よりなん	5/23	参加者数(受講者):17人(12団体)／ボランティア1人 市民活動団体がイベントや講座を開催する上での基礎を学ぶ研修会を開催した。名古屋を拠点に活動する「おやこらボ」に講演いただき、その後よりなんからイベントの企画、準備、運営のポイントなどを伝えた。本研修を受けた団体は秋までに団体が主催するイベントを実践いただき、第2回研修で振り返りを行う。
市民活動サポート 研修 「イベント運営レベルアップ講座②」	よりなん	12/7	参加者数(受講者):10人(7団体) 入門編(研修①)でイベント開催のノウハウを学び、その後受講団体は実践し、今回は振り返り編として開催した。実践イベントは10回開催され一般来場者138人が受講した。イベント運営における課題解決力が向上し、活動基盤の強化に繋がられた。グループワークでは反省点や気づきを団体同士で共有し、アドバイスしあう姿が見られた。また、新たな協働が生まれる機会にもなった。
市民活動サポート 研修 「SDGs 研修①」	やはぎか ん	8/29	参加者数(受講者):15人(6団体)、講師:2人(1団体) 市民活動促進のためSDGsを自分事と捉え、団体価値や今後の活動の参考にするための基礎を学んだ。企業によるSDGsの取組みも紹介し、自分の「SDGs 宣言」を行うことで持続可能な活動を目指す必要性を理解し実践する機会になった。
市民活動サポート 研修 「SDGs 研修②」	やはぎか ん	9/27	参加者数(受講者):10人(5団体)、講師:4人(2団体) 福祉や地域住民の居場所づくりに関して多様な主体と関わりを持つ講師を招き、地域や団体間のパートナーシップの大切さを学ぶ機会を提供した。市民活動や地域における役割を参加者同士が同じ目線で考え、応援し合い、刺激を与え合う機会となり、補い合うことへの意識も育むことができた。

市民活動サポート 研修 「IT 利活用研修」	むらさきか ん	1/25	参加者数(受講者):28 人(20 団体)／講師:2 人(2 団体) 岡崎市視聴覚ライブラリーの杉坂和俊氏から、情報モラルと 情報リテラシーの両方を高める必要性を講演いただき、また 東海中学校 PTA 副会長の佐藤仁泰氏からは生成 AI を活 用した PTA 活動を事例として講演いただいた。これらを通 じ、市民活動団体はデジタルツールを安心・安全かつ効果的 に活用していく基礎知識を取得し、活動への意欲を高めても らうことができた。
市民活動サポート 研修 「おかざき市民活 動情報ひろば活用 研修」	悠紀の里	5/15～ 6/30	参加者数(受講者):14 人(6 団体) (延べ 32 名) 「おかざき市民活動情報ひろば」の基本的な操作を市民活 動団体が使いこなせるよう、「お知らせ」「イベント」「活動紹 介」「ボランティア等の募集」の各カテゴリーをマンツーマンで 研修した。各団体1～2 時間程度にわたって研修を行い、団 体の情報発信に役立ててもらうことができた。

(2) 市民活動団体の連携の推進及び強化につながる交流事業

市民活動団体に取り組む様々な課題の中からテーマを定め、多様な団体が集まり交流会
や意見交換をすることで、新たなつながりの創出や既存の連携体制の強化につながる機会
としている。(別紙2「市民活動団体等の連携の推進及び強化につながる交流事業報告」参
照)

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
地域交流サミット 「くらしをまもる」	なごみん	2/13	参加者数 25 人(4 団体)／講師 4 人 子どもたちを取り巻く環境の変化と防犯に関して、講演や 2 つ の事例を発表し、地域の様々な方々や市民活動団体とで意 見交換をした。防犯アドバイザーの意見なども取り入れなが ら、ソフト・ハード両面で地域社会が必要とする取組は何なの かを共有・認識することができた。
市民活動エキスポ	よりなん	1/25	参加者数:389 人／出展 86 人(15 団体)／ボランティア 2 人 市民活動団体、地縁組織、企業等が出展し、体験や展示を 通じて活動を PR。来場者はブースラリー等を通じて団体の活 動を知る機会となった。また、開催にあたっては実行委員会 形式で実施し、出展団体間の話し合いや交流する機会を設 けることができた。
ボランティア交流 会	やはぎか ん	12/4	参加者数:28 人(22 団体)／出展 5 人(2 団体)／講師 2 人 ボランティアの基礎知識や受入の心得を学んだ後、学生ボラ ンティアの現状や受入の工夫、マッチングの課題など、現場の 声を聞く機会を提供した。グループワークでは、ボランティアに 関する考えについて意見交換をしたことで、他団体への理解 が深まり、他団体の事業参加につながった例もみられた。 ギャラリー展示では、身近なボランティア活動を行う人物の取 材記事を展示し、広く周知することができた。

活躍人！交流会 ～食品ロス対策～	むらさきか ん	8/24	参加者数:25人(21団体)／講師2人 愛知学泉短大食物栄養学科や認定NPO法人葵風による事例紹介を通じて、食品ロスを発端とする社会課題を自分事として捉えてもらうことができた。グループワークでは食品ロス削減についてグループ内で意見交換することで、協力体制が生まれ協働に繋がる機運が高まった(アンケート結果では8件の協働可能性が見られた)。
ゆきファミリーパーク	悠紀の里	10/13	参加者数:662人／出展90人(17団体)／ボランティア38人 実行委員会を立ち上げ、子育て世代向けのイベントを開催した。今年度はパパマイスター登録者や企業の出展にもつながり、来場者に好評だった。出展団体には団体同士の相互理解を深める機会として当日以外に、子育て支援交流会、PRチラシや館内装飾の製作日を設けた。当日は相互のブース体験時間を設定し、交流と連携を深めるきっかけを提供した。

3 市民活動に関する相談対応

窓口で対応するすべての職員を市民協働コーディネーターとすることで、施設開館時すべての時間帯で相談を受けられる体制を整えている。また、「活動相談メニュー」を窓口に掲示したり、地域交流センターホームページにも掲載をしたりすることで、活用の啓発を行った。

全センターで受け付けた相談内容の内訳は下表のとおり。「その他」には内訳に記す項目のうち相談内容が複数にわたるものもカウントしている。

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 小計
市民活動団体登録	0	0	3	4	4	1	0	2	4	1	0	1	20
団体紹介	2	2	1	4	3	3	2	1	2	0	4	3	27
運営相談	4	2	5	1	5	2	7	2	5	2	1	3	39
ボランティア	1	1	1	1	2	1	1	0	0	2	4	0	14
助成金	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	4
その他	6	8	7	6	5	3	3	3	1	4	1	2	49
全センター合計	14	13	17	18	19	10	14	8	12	9	10	9	153

4 地域の市民活動の活性化に寄与する事業

(1) 地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業

町内会等の地縁組織や地域の活動団体、事業者等と協働して事業を企画運営することができた。市民活動団体に加えて、積極的に多様な組織を事業に巻き込むことで、これまでの市民活動団体間のつながりよりもさらに協働の幅が広がり、将来の協働のきっかけの機会となった。(別紙3「地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業報告」参照)

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
聾学校×地域 協働創出事業	なごみん	7/31、 8/2	参加者数:86 人／聾学校(先生・生徒)34 人／団体 13 人(1 団体)／ボランティア 2 人 岡崎聾学校と地域との連携を生み、地域活動の活性化を目的とした手話交流会を開催。高等部と中等部でそれぞれ開催し、今回は岩津マジッククラブと協働し、参加者全員でマジック体験を行い、交流を深めた。
なごみん横丁	なごみん	8/6、7、 8	参加者数:669 人／協力 6 団体／ボランティア 195 人 市民活動団体や企業等と協働して、こどもたちが自ら考え行動するまちづくりイベントを開催。ボランティアには高校 5 校が協力。企業・団体連携では 7 社・団体が参加し、子どもたちに“仕事”を提供したり、物品を提供したりするなど、多様な主体と協働し、こどもと地域の接点を創出できた。また、子どもたちがゼロからまちを作っていくことで、自分ごととしてまちづくりやまちの運営を体験してもらうことができた。
地域とつながる協働交流会	よりなん	11/30	参加者数:14 人(12 団体) 異なるテーマや異業種間で協働する利点、コミュニケーションの取り方、相談窓口について情報共有を行い、課題解決に向け自団体ができることを共有する場を設けた。また、他団体との繋がりを促進するための「活動が分かるもの交換会」を実施し、協働の大切さや理解度を増す機会を提供できた。13 の協働パートナーの芽が生まれた。
花のとう支援事業	やはぎかん	5/12	参加者数:300 人／出演 4 団体／ボランティア 2 人 (※やはぎかん担当ブースの数値) 矢作地域の伝統行事「花のとう」の実行委員会と協働し、花のとう開催に向けた広報活動やマッチング、会議運営支援などを行った。催事日には、花のとうの由来や伝統、地域とのつながりを市民に啓発する展示ブースを設け、多世代に発信し、同行事を啓発した。
防災交流会	やはぎかん	6/29	参加者数:49 人／出展 14 団体／ボランティア 16 人 市民活動団体岡崎ボードゲーム会や守ろう子どもと赤ちゃんと協働し、防災ボードゲームや防災体験コーナーを設営した。多くの学生ボランティアも関わり、大人も子どもも楽しみながら防災を学べる設えとなった。また、14 の市民活動団体による展示も、防災に関する情報発信と啓発につながり、大変好評だった。

むらさき麦まつり連携事業 「市民活動博覧会」	むらさきかん	5/18	参加者数:1,153 人(20 団体)／ボランティア 1 人 市民活動団体等による体験会を 12、作品や活動紹介の展示を 13、販売を 4 ブース設置し、市民活動の PR と啓発を行った。また、藤川まちづくり協議会主催の「むらさき麦まつり」と同時開催し、連携やサポートを行ったことで双方向の人の回遊が生じ、多様な層に市民活動や地域活動を啓発できた。
むつみ地域交流会	悠紀の里	9/8	参加者数:42 人(28 団体)／出展 2 団体／ボランティア 2 人 むつみ地域包括支援センター及び南部地域包括支援センターと協働し、六ツ美地域の連携を図ることを目的に開催。今回は防災をテーマに、ファーストミッションボックスの体験と意見交換を行った。 地域総代のほか、学区社教の防災関係者や女性自主防災クラブの方にも参加いただき、多様な交流の機会となった。

(2) 周年記念事業

悠紀の里において開館 10 周年を迎えたため、記念事業を開催した。

(別紙 3「地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業報告」参照)

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
悠紀の里開館 10 周年記念事業 「ゆきフェスタ」	悠紀の里	2/15、16	参加者数:4,247 人／協力 17 団体／出展 42 団体／ボランティア 30 人 2 日間にわたり周年事業を開催した。悠紀の里サポーター会による歴史民俗資料室案内ガイドツアーや、香川県綾川町のそばの振る舞い、地縁組織と学泉短期大学が協働したお菓子のレシピ開発等、市民活動を行う団体に加え、地域団体・学校・企業・行政(岡崎市ふくし相談課・地域福祉センター・地域包括支援センター)など垣根を超えた協働を図ることができ、地域の活動を活発化し発信することができた。

(3) 情報誌の発行及び配布

市民活動の促進につながる有益な情報や市民活動団体の活動 PR 等の情報をまとめた情報誌「まちのワ！」を 2 か月に 1 回、奇数月に発行。市内全町への回覧に加え、市役所、各支所や市民センター、小中学校、その他市内外の NPO 法人や市民活動支援センターへ配布、さらに交流センターホームページ上での公開など幅広く情報を発信した。(別紙 4「情報誌まちのワ！一式」、別紙 5「その他事業報告(情報誌・施設ボランティア他)事業報告」参照)

1回あたり約15,000部発行。年6回発行により、年間で約90,000部発行。

- ・5月号 特集：むらさき麦が薫る 東海道藤川宿を歩こう！
- ・7月号 特集：交流も協力も学びも ボドゲで誰もが笑顔に
- ・9月号 特集：熱き想いを胸に丸十年 活動を継続する秘訣に迫る
- ・11月号 特集：地域活動の強い味方 担い手つなぐ中間支援組織
- ・1月号 特集：高齢者の憩いの場 コミュニティカフェ『いわづハウス』
- ・3月号 特集：暮らしが豊かになる 学びの場「まちゼミ」

（４）施設ボランティア・環境演出事業

各センターで、花壇の整備や館内装飾などセンターの特色に合わせて創意工夫しながら、市民がボランティアとして施設運営に参画し活躍できる場として「ふれあいひろば」を実施した。今年度は市民（ボランティア）参加型の館内装飾及び花壇を利用した法性寺ネギの栽培など市民活動団体によるサポートのもと新たな企画に力を入れることができた。また、活動団体と来館者の交流の場ならびに自己表現の場である交流スペースでのマジックや音楽演奏などを行うサロンも積極的に活用されている。ボランティア数の状況は、後述の「第5 管理運営上の目標」に記載する。（別紙5「その他事業報告（情報誌、施設ボランティア他）」参照）

第2 施設の運営に関する業務

1 利用者対応業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。特徴的なものは、下記の通り。

- ・利用者の利便性向上のために、各センターの交流スペースにフリーWi-Fiを設置し運用した。掲示等で利用促進を行った効果もあり利用者が増加している。
- ・利用者が理解しやすい対応を行うために、情報提供用のタブレット端末を各センターの窓口に配備し活用した。利用者が施設予約システムの市民画面（ネット予約）やおかざき市民活動情報ひろばを閲覧したり、センターの活動室や設備の写真を見られることに加え、岡崎商業高校の生徒が作成した市民活動団体紹介ムービーの放映も行い、市民活動の啓発を行った。
- ・施設内の案内表示や利用ルール（簡易版）などの外国語表記を、市民活動団体や施設利用者に協力してもらって作成したり、岡崎市障がい者福祉団体連合会と協働してバリアフリー情報を発信、男性用トイレにもサニタリーボックスを設置するなど、多様性を尊重した取り組みを実施した。
- ・氷や経口補水液を常備し熱中症対策を講じ、また、消毒や検温器を設置し感染症対策も講じ、安心して利用できる施設運営を行った。

2 施設等貸出し業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

利用者数の年間目標値に対しての達成度合は、後述の「第5 管理運営上の目標」に記載する。印刷サービスの利用状況は、別紙6「印刷サービス利用状況」に記載する。

3 使用料等収受業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

4 広報業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

令和6年10月からは、ホームページに加えて地域交流センター・市民活動センターの情報を発信するSNS としてInstagramの運用を開始した。また、Instagramはfacebookともリンクできるため、これまで各センターがそれぞれfacebookページを立ち上げて運用していたのを一つのアカウントに統合した。これにより、これまでよりも広く効率的に情報発信を行うことが可能となった。

5 その他包括的運営に関すること

(1) 非常時の対応

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

大規模災害が発生し施設の被害状況の確認が必要になった場合に備え、第1担当・第2担当をより現実的に即した配置に再設定し、さらに現場到着後の行動マニュアルや被害状況確認のチェックリストを整備したことで、円滑な状況把握ならびに報告ができる体制を再整備した。

(2) 飲料等の提供に関する業務

管理運営計画書に記載の通り、各センターに自動販売機を1台ずつ設置している。また、各地域交流センターで菓子の設置スペースを設け、公益活動団体（福祉事業所・就労支援施設など）が製造・販売している菓子を提供した。

(3) その他包括的運営に関すること

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

第3 施設及び設備等の維持管理に関する業務

1 保守管理及び環境維持管理業務

保守管理及び環境維持管理については、別紙7「保守点検等実施記録」に示すように実施した。点検において重大な問題点などを発見もしくは点検業者から指摘された場合には、速やかに報告と見積取得を行い、修繕対応している。

指定管理者から業者へ発注した修繕案件は、別紙8「修繕実施報告」の通り。

2 駐車場及び駐輪場管理業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

3 中長期修繕計画作成業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

第4 その他の業務

1 人材育成研修

窓口業務に携わる職員に対し、市民協働コーディネーターならびに施設管理者としての資質を備えられるよう、人材育成研修を実施した。新人研修では、施設概要や市民活動・ボランティアに関することに加え、ハラスメントやコンプライアンス、救命救急講習など、より実践的な内容を行った。さらに、センター長向けに行ったファシリテーション研修では、研修プログラム修了後に学んだ技術を活かしてセンターの提案事業で実践するなど、個人の能力向上に加え、提案事業の質の向上にもつながられた。(別紙9「人材育成研修実施状況」参照)

2 市民意見の聴取及びその検討

(1) 運営懇談会

市民活動団体や地縁組織、地域活動団体等に対し、地域交流センターの取り組みや機能を発信し、相談機能活用や今後の連携強化に向けた意見交換を行った。各センターにおける、日程や参加者数は下記の通りである。(別紙10「運営懇談会意見交換要旨」参照)

開催場所	日程	想定人数	実績
なごみん	7/18	10人	12団体12人
よりなん	6/20	10人	9団体10人
やはぎかん	7/17	10人	10団体11人
むらさきかん	7/26	10人	11団体11人
悠紀の里	7/11	10人	10団体10人

(2) 私の意見箱

各センターにて、利用者が投書できる意見箱を設置している。また、地域交流センターホームページにも意見や問合せができるページを用意し、気軽に質問や相談ができる環境を整え対応した。1年間で意見箱に6件、ホームページ経由で7件の投稿があった。内訳は、要望6件、問合せ6件、その他(お礼)1件だった。

センター名	分類	投書内容	回答
なごみん	問合せ	11/8 に和室を予約しています。プロジェクター、スクリーンを使いたいのですが、貸し出しはされていますか？	貸し出ししておりますが、ご希望のお日にちは先約があり、プロジェクターの貸出在庫がございません。スクリーンは使用可能です。
	問合せ	ゼミ活動で全国のこどものまちについて調査を行っており、卒業論文でこどものまちが消費者教育に有用か検証しています。なごみん横丁についてアンケートのご協力をお願いできますか。	担当者のメールアドレスをお伝えした。
よりなん	お礼	4ヶ月の赤ちゃんと2歳半の男の子を連れて、よりなんのプレイルームを利用しました。（中略）優しい保育士さんのおかげで、終わりの見えない忙しい育児の中で、ほっとできる時間を過ごせました。	お礼を返信。
やはぎかん	問合せ	以前は自主勉強スペースがあったと聞きました。現在もそういったスペースはありますか？	地域の方や市民活動団体の打ち合わせ等（概ね1時間目安）に利用できる交流スペースがあります。 自習室ではありませんが、勉強目的での利用も可能です。
	要望	カフェについて、コーヒー用にクリープと砂糖がほしい。ほうじ茶とほうじ茶ラテを入れてほしい。夏でもホットドリンクを出してほしい。	多くの皆さんに利用いただける品物を入れ、充実させていきます。 →後日商品のラインナップを増やしたところ、喜んでもらえ、お礼を言われた。
	要望	引き続き、カフェにほうじ茶ラテを置いてほしい。	ご期待にそえるように検討します。（販売継続していたが、たまたま品切れのタイミングだった）
むらさきかん	要望	活動室をもっと増やして欲しい。	建物の構造上、増設は難しいです。予約が取りづらいなど困りごとがあれば、空いている日時をお調べしますので、窓口にご相談ください。
	要望	和室の畳が刺さる。張替はできないでしょうか。	各センターで畳の状態が悪いところから順次張替をしているので、今しばらくお待ちください。

悠紀の里	要望	卓球台を設置してほしい。	体育施設ではないので、設置はできません。六ツ美体育館などの体育施設にお問い合わせください。
	要望	モップの交換をいまより回数多くして欲しい。掃除機の購入をお願いします。	掃除機は印刷室においてあるものをお使いいただけます。スタッフ側では掃除機のゴミパックの交換回数（チェック）やモップの清掃回数を増やすことを検討します。
不明または共通 （ホームページ）	問合せ	コンセントは使用しても良いですか？	活動室内でしたら使用料に含まれているので使用可能です。その他の交流スペース等は、恐れ入りますが、使用できません。全センター同じ運用をしています。
	問合せ	11/3 にそちらでプログラミング教室のイベントを開催します。こちらのホームページに告知記事を掲載していただきたいのですが可能ですか？	地域交流センターのホームページへの掲載は地域交流センターが主催する事業のみに限る運用をしているのでご希望に添うことができません。地域交流センターで開催する事業の告知チラシ（紙媒体）の配架は可能です。
	問合せ	毎年この時期になると岡崎市のピンバッジが販売されていますが、今年は新しく販売されることはあるのでしょうか？あるとしたら販売開始日を知りたいと思います。	岡崎市広報課に確認し、①最新のピンバッジは昨年12月に販売となった「岡崎城公園」記念さくらピンバッジであること、②この3月末～4月にかけては、新たなピンバッジの販売予定は無いこと、③問い合わせ先は、岡崎市観光協会（岡崎おでかけナビ）であることを返信。

（３）利用者アンケート

11月に各センターにて、貸館利用者に限らず、印刷室やプレイルーム、交流スペース等を利用している人にアンケートを実施し、全体で668件の回答を得られた。

「施設や付属設備の利便性」、「施設の清掃状況」、「職員の明るい対応」については、77～82%程度の人が満足・やや満足と回答し概ね適切な施設運営ができていると考えられる。一方で、施設の利便性について普通・やや不満と回答した理由は、エアコンやトイレなど設備の性能や使い勝手に関するものが多かった。施設を清潔な状態に保つなど、対応可能な指摘については改善に努める。

「市民活動相談ができることを知っているか」の問いに知っていると回答した人は62%で、前回の結果を大きく上回った。市民活動相談窓口のPR活動が結果につながっていると考えられる。

全体を通して運営に対する評価としては、概ね好評を得られ、適切な施設運営ができていることが読み取れた。(別紙11「利用者アンケート結果」参照)

(4) アウトリーチ

アウトリーチの実績は、後述の「第5 管理運営上の目標」に記載する。

第5 管理運営上の目標

1 利用者数

利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	5,280	5,516	5,380	6,557	8,818	6,844	5,034	6,592	6,364	5,071	6,139	7,314	74,909	67,000
よりなん	8,638	7,787	8,473	8,257	7,362	7,472	7,824	8,426	7,665	7,724	7,572	9,829	97,029	97,000
やはぎかん	7,069	8,593	7,114	7,966	7,296	8,115	7,410	8,883	7,092	6,855	7,364	8,515	92,272	86,000
むらさきかん	7,280	7,818	8,318	7,772	6,885	7,067	9,313	7,286	7,383	7,040	8,925	8,784	93,871	90,000
悠紀の里	5,596	6,067	9,158	8,197	6,431	7,040	7,391	8,604	7,322	5,726	12,121	7,493	91,146	70,000
合計	33,863	35,781	38,443	38,749	36,792	36,538	36,972	39,791	35,826	32,416	42,121	41,935	449,227	410,000

達成率： 110%

昨年度の交流スペースの利用制限緩和やプレイルームの土日祝日開放開始、天井耐震工事で閉鎖していたやはぎかんホールの再開等の周知が進み、昨年度実績から月平均3千人増のペースで推移した。それに加えて、2月に開催した悠紀の里周年イベントの影響もあり、年目標を上回った。コロナ禍以降、比較的低人数での活動室利用が多くなっている傾向がある一方、徐々に大人数でのイベント利用も増えてきている。また、交流スペースやプレイルームの利用者も増加傾向にある。

2 ボランティアマッチング数

ボランティア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	38	54	62	268	246	32	120	73	40	37	44	57	1,071	700
よりなん	241	79	351	188	239	125	170	133	92	109	42	41	1,810	1,600
やはぎかん	135	115	270	242	177	157	131	115	57	83	78	29	1,589	1,200
むらさきかん	15	43	31	144	25	23	230	33	136	22	17	137	856	700
悠紀の里	100	20	62	133	26	25	49	24	155	8	224	20	846	800
合計	529	311	776	975	713	362	700	378	480	259	405	284	6,172	5,000

達成率： 123%

まちびとバンクでボランティア募集をした施設ボランティア（ふれあいひろば事業）において、市民参加型の館内装飾プログラムでプレイルームに来る親子や交流スペースに滞在している学生などがボランティアとして関わってくれたことで、マッチング数の増加につながった。これは、特によりなんと悠紀の里において、今年度新たなプログラムを考え館内装飾の企画数やガーデン整備の活動回数を増やして取り組んだ結果ともいえる。また、外部からのボランティア募集依頼で子ども食堂や地域の環境美化活動等へのマッチン

グ件数も増えてきており、全センターでの年間目標 5,000 人に対して 6,172 人と目標数値を大幅に上回り達成することができた。

さらに、まちびとステージと称し、特技を活かす場所や機会を募集しマッチングする取り組みでは、年間 28 件応募に対し、高齢者施設や子ども会、老人会等を中心に全センターで 116 件のマッチングに至った。この取り組みは市民活動団体に対する公益活動の機会づくりにもつながっている。

地域交流センターでの活躍の受け皿づくりと外部からの依頼に対する丁寧なヒアリングがマッチングにつながり、ボランティア活動の活性化につながっている。

3 事業への参加・協力団体数

参加・協力団体 センター名	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			合計	年目標
	協力	参加	出展	協力	参加	出展	協力	参加	出展	協力	参加	出展		
なごみん		8		8				10		1	4		31	50
よりなん		12						19				15	46	50
やはぎかん	3	15	17	3	11		3	17	2				71	50
むらさきかん		20			21					2	20		63	50
悠紀の里		6		2	28	2	2		17	17		42	116	50
合計	3	61	17	13	60	2	5	46	19	20	24	57	327	250

各地域交流センターが開催する研修や交流事業、地域連携事業において、市民活動団体や事業者等が関わった団体数を示している。関わり方に応じて、以下の3つに分類して数えている。

- ・協力) 事業の企画段階から協力、協働関係をもって関わった場合
- ・参加) 事業当日に参加した場合
- ・出展) 事業当日にブースや発表などを行った場合

なごみんとよりなんにおいては年間目標 50 という参加・協力・出展団体数に届かなかったが、悠紀の里の 10 周年記念事業「ゆきフェスタ」で大きく出展数を伸ばすなど、全体としては年間の目標を大きく上回ることができた。センターが企画する事業によっては、参加団体が少ない方が質の高い話し合いができて良い事業になるケースもあるため、思うように目標値に達せられない面もあったが、センターごとに差が大きくなりすぎてしまった点は、次年度への課題であると考えている。市民活動団体や地縁組織、事業者等の繋がりを早い段階でいっそう広げ、連携と発展が図りやすくなる基盤をつくっていききたい。

4 アウトリーチ

アウトリーチ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	8	4	7	2	1	2	1	1	2	8	2	4	42	24
よりなん	7	6	0	0	2	0	0	5	0	0	4	4	28	24
やはぎかん	11	6	3	1	0	4	1	3	4	2	0	3	38	24
むらさきかん	10	4	5	6	2	1	2	3	1	1	1	0	36	24
悠紀の里	10	2	2	1	5	6	4	0	1	2	0	2	35	24
合計	46	22	17	10	10	13	8	12	8	13	7	13	179	120

達成率： 149%

地域内の事業者や学校、NPO 等に、ニーズ調査や交流センターの活用促進 PR、事業での協力体制の模索等のヒアリングを行い、年目標を達成した。アウトリーチにより、有益な情報収集ができた（活動状況や課題意識、支援のニーズ等）：80 件、センターPR ができた：116 件、センター事業への参画につながった：82 件、他団体を紹介またはマッチングできた：7 件という成果が得られた。情報を分析し、今後のマッチングや実施事業・支援策の構築へ活用していく。

5 市民活動の質的充実

地域交流センターでは年間を通して、市民活動団体のマネジメント能力の向上や広報活動のサポート、各種運営の相談対応を行っている。各種相談に適切に対応できるよう、人材育成を行ったりネットワークを充実させたりすることで、市民活動支援の幅や質をいっそう充実させることができた。また、町内会や事業者など多様な主体との連携を促進するために、各所にアウトリーチして情報収集を行ったことで様々なニーズや協働の芽を見つけることができた。これらの情報を活用し、各主体だけでは成しえない創造的な状況を生み出し、市民活動の活性化・定着化に寄与できた。

提案事業では、第 3 期市民協働推進計画（発展期）を意識し、団体の組織力や継続性を高めるために必要な知識やネットワーク、活躍の機会を提供し、運営力のボトムアップにつなげられた。特に、特技を活かす場所や機会を募集しマッチングする「まちびとステージ」では、これまで共益に近かった団体が同機能の活用により、市民に開かれた活動に発展する事例も見られ、市民活動の活性化・定着化につながった。

第 6 収支状況

1 収支状況

令和 6 年度の収支状況は以下の通り。

	項 目	内 訳	決算額（円）
収 入	委託料収入	指定管理料	177,906,000
	利用料金収入		0
	事業収入	印刷室サービス料金収入	1,520,680
	その他収入	自動販売機、カフェ等の収入	924,777
収入 計			180,351,457
支 出	直接管理運営費	直接人件費、修繕費、清掃等委託料等	138,593,518
	（うち修繕費）	※精算項目	3,997,760
	事業費	直接事業に係る経費	11,087,161
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	30,670,778
支出 計			180,351,457
差 引			0

2 収支状況に関する自己評価

ここ数年で急激に物価が上昇し、運営にかかる消耗品や仕入れにも影響が出ている。令和4年度に印刷作業室の価格設定を見直したことにより、現時点ではカバーできているが、今後の物価上昇率に注視して価格改定を検討していく必要がある。令和4年度の価格改定の際、よく使われる輪転機や複合機の料金は据え置きまたは上げ幅を抑え、その他の機材の上げ幅を増やしてカバーする工夫を施したことにより利用者離れを抑えられていると考えられる。今後も利用者の利便性を考慮しながら価格の妥当性を判断していく。

直接管理運営費は、最低賃金の上昇などの雇用環境の変化により、職員の人件費だけでなく外部委託料も増加傾向にある。このような状況下で、少しでも外部委託料を減らすために、修繕スタッフによる日々の点検及び補修を行い大規模な修繕を未然に防ぎ経費の削減に尽力できている。一方で、物価や人件費の上昇で発注費用が増加傾向にあることから、修繕費で対応できる件数が減少している。

第7 自主事業

12月1日から、①消耗品販売、②移動販売車ならびに館内ブース出店を開始した。①、②ともに一定の需要があり、利用者満足度向上につながられた。詳細は、別途提出する「岡崎市地域交流センター 自主事業実施報告書」を参照。

第8 総括（事業全体に対する自己評価）

第3期指定管理期間から大きく運営体制や提案事業を見直した初年度である令和4年度は、体制を整えつつアウトリーチ等で多様な主体との連携を模索した年だった。令和5年度は改善・改良を施し、目標数値の達成や提案事業における連携強化、マッチング数の増加など成果が見られた。令和6年度は、過去2年の取組みの検証・改善により、目標数値の達成やマッチング数のさらなる増加等が見られ、安定的に高い水準を継続できていることが分かる年となった。

施設の保守管理及び環境維持管理では、修繕担当職員が定期的に全センターを巡回し、内部で対応できる修繕を行うことで業者への工事発注を必要最小限にとどめられている。具体的には設備・備品のメンテナンスやトイレ・水道設備の排水改善、雨漏り対策など多岐にわたり、修繕費の削減につながられている。さらに、中長期保全計画とあわせて設備の老朽化や故障の状況を管理しているため、実際に故障し市での修繕工事が必要になった際には、担当課が迅速に対応に当たれるよう、必要な情報を早急に提供し利用者への影響を最小限にとどめることができた。

提案事業の市民活動サポート研修では、市民活動を実践する上で欠かせないマネジメントやイベント運営の基礎から、IT利活用やSDGsといった時代の流れを汲んだ研修を開催し、団体が継続・発展的に活動していく力を育んだ。また、アウトリーチなどを通じて把握した地域課題や特性、ニーズに合わせ、子育て・防災・環境・ボランティア・地域活動・市民活動のマ

ツチングといった多様なテーマの交流事業や地域連携事業を展開することで、市民活動団体をはじめ町内会や事業者、学校など、年間を通じて実に 300 を超える多様な主体の参加や協働を実現することができた。特に悠紀の里では、開館 10 周年記念事業として「ゆきフェスタ」を開催し、多数の地域団体や市民活動団体、企業などの出展と連携を実現し、地域の活力を創出する機会となった。これらの事業を通してつながった団体同士が、当該事業以外のところでも新たな連携を生みだしているケースもある。引き続き、市内の 5 エリアに地域交流センターがあるという特徴を活かして、事業を実施していきたい。

自主事業では、これまでにない新たな試みでキッチンカーや館内ブース販売の受け入れを開始した。令和 7 年度の正式運用を目指した試験導入ではあったものの、利用者に加えて近隣住民の利用も見られ一定の需要があることが分かった。事務負担の軽減など課題はあるものの、軽食やカフェの導入を望む利用者の満足度向上や地域交流センターに足を運びたくなる雰囲気づくりに有効な取組みなので、次年度も引き続き試行錯誤しながら運用していく。